

現地KY・1人KY

KY(危険予知)という言葉は現場でよく耳にしますが少し難しい言葉です。あらためて、現地KY・1人KYの意味や必要性を考えてみましょう。



現場での朝礼後に職種ごとに職長を中心として、今日の作業内容・危険ポイントなどを確認してそれぞれ作業に取り掛かっていきます。

作業場所に着いて現地KY・1人KYを意識的に行っている人は少ないのではないのでしょうか。

作業前にイメージすることが安全につながっていくのでいくつか例題をあげて説明していきます。



- * 作業場所の清掃状況の確認をして通路を確保する。
- * 電動工具の始業前点検を行う。
- * 資材を移動する時は第三者との接触の危険がないか確認する。
- * 作業の順序、施工に間違いがないか確認する。

このようなイメージを実際に行っていくことにより作業効率も上がり安全対策にもつながっていきます。意識をしていなくても経験から自然に身につけていくことも多くあります。

さらに安全に対して意識を高めるためには現地での指差呼称や周りへの声かけなどが有効な手段です。イメージして声にだすことが自分の身を守るためと認識して取り組んで行きましょう。

